土湯の森植生モニタリング調査

10月11日（火）、戸沢村最上川スキー場跡地、土湯の森において、山形大学農学部　菊池准教授、学生9名、地元古口地区住民の方々、神室山系の自然を守る会、山形県最上総合支庁、戸沢村役場、最上支署、センター職員の計26名により、自然再生実施計画上最終となる10回目の植生モニタリング調査を実施しました。

（今回も大勢の方にご協力いただきました）

前日までの雨も上がり、秋晴れの下、山形大学農学部の学生、地域住民等による調査を下草が生い茂る中、みんなで苗木（ブナ等広葉樹）を探しながらフォローし合い、無事終了することができました。

（下草を掻き分け苗木を測定）

調査終了後は、毎年恒例の幻想の森散策です。

大学生の皆さんは全員初めて来られたとのことで、樹齢約1,000年とも言われている最上峡天然スギを目にして、その形状の奇抜さに驚いていました。勉学で日々忙しい中、良い気分転換になったと思います。

（幻想の森を満喫していただきました）

自然再生事業実施期間の10年間において、センター職員の異動や自然再生実施協議会における会長、委員の交代がありましたが、地元である戸沢村や住民の方々はじめ、関係団体の皆さま、そして山形大学のご協力により、長期事業を終了することができました。本当に感謝いたします。

この事業が何らかの参考事例になれば幸いです。

（皆さん、おつかれさまでした）